



日本学士院ニュースレター

明六社だより

トピックス：

- 平成21年度日本学士院賞が決定しました
- 第5回日本学士院学術奨励賞が決定しました
- 中学生・高校生向けの講演会を実施しました
- 新会員6名を選定しました
- 春の公開講演会を熊本で開催します



学術上特に優れた論文・著書その他の研究業績に対し授賞を行う日本学士院の授賞制度は、明治43年に創設されました。翌44年の木村榮(ひさし)博士の「地軸変動の研究特にZ項の発見」を第1号に、爾来98年間、第2次世界大戦中も中断することなく授賞式を挙行し、本年は第99回、来年の平成22年には第100回を迎えます。

写真は、天皇陛下の初めての行幸を仰いで挙行された、第39回授賞式(昭和24年)の様子です。



目次：

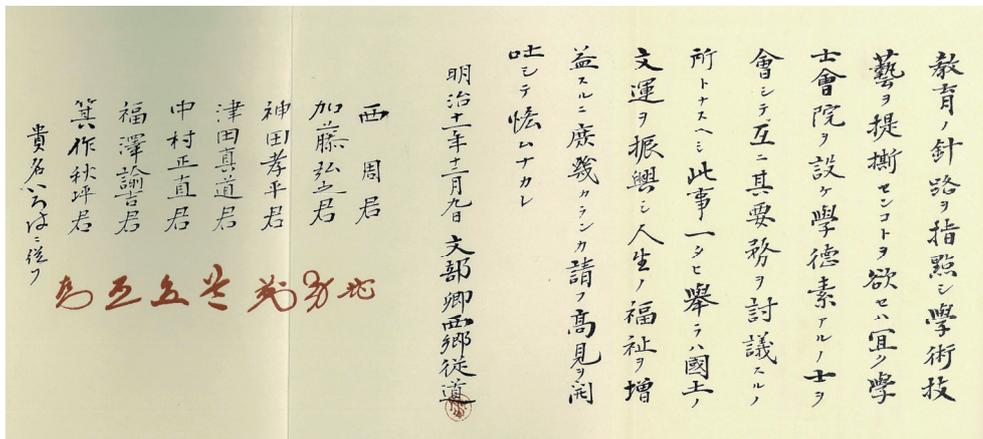
創立130周年	2		
講書始の儀	3		
ノーベル賞、文化勲章、文化功労者	4		
平成21年度日本学士院賞	5	総会における論文報告・談話	16
第5回日本学士院学術奨励賞	8	第50回公開講演会のお知らせ	17
講演会レポート	10	外国アカデミー等との交流	18
所蔵資料の紹介(川本幸民)	12	会館施設の利用案内	19
新会員選定	14	寄附のご案内	19
		会員・客員の逝去	20
		編集後記	20

創立130周年

明治11年12月9日、時の文部大輔田中不二麿は文部卿西郷従道の名をもって、西 周、加藤弘之、神田孝平、津田真道、中村正直、福澤諭吉、箕作秋坪を私邸に招いて、諮詢書(しじゅんしょ、下写真)と東京学士会院規則大意を示し、文部省の東京学士会院設立計画について意見を問いました。7名はこの二書を読んで、意義ある計画と賛成し、諮詢書に各自が判を書きました。東京学士会院設立の計画が初めて公表されたときです。

翌年1月15日、同じ7名を最初の会員として、文部省修文館において第1回例会を開き、初代会長に福澤諭吉を選出し、東京学士会院としての歩みを始めました。その目的は「教育の事を討議し學術技芸を評論する」ことにあるとされました。

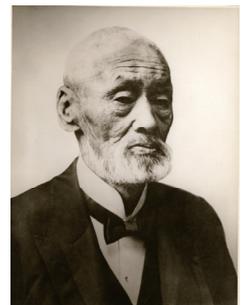
その後、東京学士会院は、帝国学士院に改組(明治39年)されるなどの変遷を経て、現在に至り、平成21年1月に創立130周年を迎えました。



初代会長 福澤諭吉



2, 4代会長 西 周



3, 5, 7, 8代会長・
院長 加藤弘之

誌名の「明六社」とは…

明六社(めいろくしゃ)は、明治6年7月にアメリカから帰国した森有禮(もりありのり)が、後の東京学士会院会員となる福澤諭吉・加藤弘之・中村正直・西周(にしあまね)・津田真道・箕作秋坪・杉亨二らとともに啓蒙活動を目的として結成した、日本で最初の近代的啓蒙學術団体です。

名称の由来は明治6年結成からきており、毎月2回(1日と16日)に会合を開くほか、『明六雑誌』を発刊しました。また、我が国の公開講演会は明六社をもって嚆矢とされています。

その後、明六社は明六会となり、東京学士会院、帝国学士院を経て、日本学士院へと至る流れの先駆となっています。

講書始の儀

年の始めに天皇陛下が皇后陛下とご一緒に、人文科学・社会科学・自然科学の分野における学問の権威者から説明をお聴きになる儀式で、皇太子殿下をはじめ皇族方が列席されます。毎年必ず1名以上の本院会員が参加しています。

今年は中国史を専門とする吉川忠夫会員が御進講を行いました。



講書始の様子(宮内庁HPより)



吉川忠夫 会員
(第1部第1分科)

「講書始の儀」の進講者をつとめて
会員 吉川忠夫

宮中の正殿松の間において催される年頭の「講書始の儀」。その進講者をつとめるよう仰せつかった。宮内庁からの事前の通達に、「モーニングコート、紋付羽織袴又はこれらに相当するもの」を着用せよとのこと。かくも晴れがましい大役を仰せつかるとは思ひもよらぬことであった。

式部官の先導で松の間に進み入ると、やがて左手前方の扉から天皇、皇后両陛下が皇太子殿下を始めとする皇族の方々の供奉のもとにお出ましになり、式部官長の目くばせによる合図に促されて、いよいよ「講書始の儀」が始まる。かつては国書、漢書、洋書についての進講が行われるならわしであったのが、昭和28年以後、人文科学、社

会科学、自然科学の三分野から進講者が選ばれるようになったとのこと。

「後漢、六朝時代における中国人の仏教受容」をテーマとした私に続いて、一橋大学名誉教授 伊丹敬之氏が「日本企業の人本主義システム」、九州大学名誉教授 入江正浩氏が「光に応答する分子」のテーマのもとにそれぞれ進講の役をつとめられた。

一人の持ち時間はおよそ15分。その日、すなわち平成21年1月9日の午前10時半から11時15分までの45分間、松の間に流れるのは終始一貫して進講者が原稿を読み上げる声だけであり、それは私にとって、異次元の世界の時間かとする感じられるほどのものであった。

「講書始の儀」は、明治天皇が学問奨励のために始めた「御講釈始」がそのルーツとされています。始めのうちは和漢書についての御進講でしたが、その後、洋書が加わり、現在は人文・社会・自然の三分野で御進講が行われています。

2008年の

2008年の

ノーベル物理学賞に輝いた南部陽一郎先生は、今回の賞の対象となった「対称性の自発的破れ」を始め、数々の先駆的な研究業績をあげて来られました。先生は、世界の学界の中で、他の追従を許さない独特の学風で知られています。それは、あまりにも先駆的すぎて、発表当初にその価値を見出した人は殆どいなかったと言われていました。

日本学士院では昭和59年、今から四半世紀も前に、南部先生を外国人客員に選定いたしました。その際に説明された業績はまさに今回のノーベル賞の対象となったものです。先生の50年前の論文は、まだ物質の根源であるクオークが登場する以前に書かれた大作ですが、やがてクオークの存在がわかり、その質量が軽いこともわかってきました。それなら何故3個の軽いクオークから成る陽子が二桁も重いのか、という根源的な問いにぶつかります。その答えが、「対称性の自発的破れ」という考えかたに基づき、既にそこで用意されていたのです。そのお仕事の先見性に驚かされます。

南部先生は万年青年。今も新しい問題に取り組んでおられます。いつまでもお元気で研究が続けられますよう、お祈りいたします。

山崎敏光(第2部第4分科)



ノーベル賞、文化勲章、文化功労者

<ノーベル賞>

本院客員の南部陽一郎博士が、素粒子物理学における“自発的対称性の破れ”機構の発見により、2008年ノーベル物理学賞を受賞しました。

南部博士は、大正10年東京生まれですが、昭和45年にアメリカ国籍を取得しています。昭和53年に文化勲章を受章し、昭和59年4月から本院客員となっています。



南部陽一郎 博士
(客員に選ばれた頃)

<文化勲章>

科学技術、芸術など文化の発展や向上にめざましい功績がある者に授与される文化勲章が、平成20年秋、伊藤 清会員(第2部第4分科)、ドナルド・キーン客員に授与されました。

伊藤会員は、大正4年三重県生まれで、東京大学卒業後、名古屋大学、京都大学、プリンストン高等研究所、コーネル大学などで研究を続け、昭和53年に恩賜賞・日本学士院賞を受賞。平成3年12月から本院会員でしたが、大変残念なことに文化勲章受章の一週間後の11月10日、逝去されました。享年93歳でした。

キーン博士は、1922年、米国ニューヨークに生まれ、18歳のときにアーサー・ウェイリー(Arthur Waley)翻訳の『源氏物語』の世界に心を奪われたことが日本文学との最初の出会いであったといいます。1953年に京都大学での研究生活を始めて2年間滞在、その後、コロンビア大学で研究及び学生の指導に当たる一方、毎夏来日して谷崎潤一郎、川端康成等々の文学者、研究者との交流を深めました。1990年6月から本院客員となっています。



ドナルド・キーン 客員
皇居前で・・

<文化功労者>

我が国において、文化の向上・発達に関し特に功績顕著な者を指します。文化功労者は、文部科学大臣が候補者の選考を文化審議会に諮問し、その選考した者のうちから文部科学大臣がこれを決定するもので、文化勲章に次ぐ栄誉となっています。平成20年は第1部第1分科の西田龍雄会員が選ばれました。西田会員の専門は「言語学」で、昭和34年に日本学士院賞を、昭和43年には日本学士院恩賜賞を受賞し、平成11年12月から本院会員です。



西田龍雄 会員
(第1部第1分科)



伊藤 清 会員
(第2部第4分科)

文化勲章伝達式での答辞 (児島計子さん(伊藤会員ご息女)代読)

於: 京都大学数理解析研究所

文化勲章受章者の一人に選ばれましたことを、数学者として誠に光栄に存じます。

数学はあらゆる自然科学の基礎であり、宇宙の現象を厳密で美しい表現で記述するための言語であります。宇宙の中の小さな星、私たち人類の唯一の故郷である地球、その上で営まれる人間社会に関する社会科学も、この意味において自然科学であり、数学の厳密で美しい表現が社会科学の分野にまで応用を見出したことは喜ばしいことに違いありません。

しかしながら、抽象的な数学の世界の方程式が、自然と人間の関わる現実世界に应用されるときには、数学だけを研究してきた私などには測りきれない問題があるように思えてなりません。確率解析やその応用分野のより一層の発展を期待するとともに、現実世界への応用に当たっては、多様で広範な分野の専門家の方々が、その高い知力と技術を結集して、地球社会の調和ある共存に寄与する場を見出されることを願っています。

平成20年11月6日 伊藤 清



平成21年度日本学士院賞

平成21年3月12日開催の第1027回総会において、平成21年度日本学士院賞の授賞が決定しました。授賞式は6月に挙行される予定です。



恩賜賞賜品
(御紋付銀花瓶)



日本学士院賞賞牌

恩賜賞・日本学士院賞

「宋詞に関する研究」

村上 哲見

東北大学名誉教授

唐末五代から北宋・南宋にかけて盛行した「詞 tsu」と称される抒情文学の発生・展開・成熟の歴史を、北宋の柳永、蘇軾(そしょく)、南宋の辛棄疾(しんきしつ)、姜夔(きょうき)など主要な作家の作風の分析を通して、系統的に追求した。



恩賜賞・日本学士院賞

「数理解物理学的な手法による素粒子論の研究」

江口 徹

京都大学基礎物理学研究所所長・教授

数理解物理学的な手法を用いて素粒子物理学を研究し多くの優れた業績をあげた。特に、アインシュタイン方程式の厳密解は素粒子の統一理論として有望な超弦理論の力学を理解する上で極めて重要な役割を果たしている。



日本学士院賞

『選挙制度と政党システム』および『日本の国会制度と政党政治』

川人 貞史

東北大学大学院法学研究科教授

我が国の選挙制度と政党システムの関連性及び国会制度の形成・変容と政党政治の相互作用を理論的に解明し、定性的な政治史研究と膨大な選挙と立法のデータを駆使する定量的な研究を融合させて実証的に分析した。



日本学士院賞

『フランス自由主義の成立－公共圏の思想史』

安藤 隆穂

名古屋大学大学院経済学研究科教授

国際的な視野と学際的な方法によるフランス社会思想史の独創的な研究であり、フランス自由主義の出発点がアダム・スミスの道徳哲学と経済思想の統一にあったことを論証して、スミス研究にも新地平を切り開いた。





日本学士院賞
「糖質を用いる多様な天然生理活性物質の全合成」
竜田 邦明
早稲田大学理工学術院教授

糖質を用いる合成法を開拓して多様な天然物の全合成を達成し有機合成の一つの方法論を構築した。多種多様な天然物の全合成を世界に先駆けて完成して新規反応も創出し、有用物質の創製及び工業的合成法の開発などにも貢献した。



日本学士院賞
「大規模・高精度計算科学に関する研究」(共同授賞)
矢川 元基

東洋大学計算力学研究センター長・同大学院工学研究科教授、
東京大学名誉教授

渡邊 貞

(独)理化学研究所次世代スーパーコンピュータ開発実施本部
プロジェクトリーダー

従来の計算力学を見直した超並列計算力学の創出とスーパーコンピュータを超高性能化するアーキテクチャの確立により、ナノから大規模・複雑構造体に亘る物体に対する高精度計算科学・工学の統一的な基盤確立に貢献した。



日本学士院賞
「イネ科作物の遺伝資源学の確立とその実践的貢献」
武田 和義

岡山大学資源生物科学研究所教授、中国科学院石家庄農業現代化研究所名誉教授

オオムギを中心とするイネ科作物の大規模な系統の収集・評価を行い、その収量性・環境適応力を支配する諸形質の発現機構を解明し、新たな有用遺伝子源の発見とその実用化に成功した。

昨年度(第98回)授賞式の様子



授賞式前に会員と懇談する受賞者



受賞者より説明を受けられる両陛下





賞状及び賞牌を授与される受賞者



受賞者記念写真

日本学士院賞

「生理活性脂質と膜脂質代謝に関する研究」

清水 孝雄

東京大学大学院医学系研究科長・医学部長・教授

炎症や免疫にかかわる脂質メディエーターの産生酵素や受容体の発見と単離により、気管支喘息や関節リウマチなどの発症メカニズムの解明と治療薬開発に貢献した。



日本学士院賞

「細胞内カルシウム制御機構の研究」

御子柴 克彦

(独)理化学研究所脳科学総合研究センター神経発達障害研究グループ グループディレクター、東京大学名誉教授

ホルモンや神経伝達物質の働きに中心的な役割を果たす分子・IP₃受容体の全構造を決定、それがカルシウム放出のチャネルであることを示し、更にIP₃受容体の生理機能や病気との関わりを明らかにした。



第2号に掲載した第98回受賞者寄稿において、恩賜賞・日本学士院賞受賞者の諸熊奎治博士のご寄稿が、手違いにより落ちておりました。

ここに深謝するとともに、改めて掲載させていただきます。

授賞式の一日

諸熊奎治(京都大学福井謙一記念研究センター リサーチリーダー)

第98回授賞式の6月23日は記念すべき、そして長い一日であった。

50年の研究生活をサポートしてくれた家内、4人の子供を代表してアトランタから駆け参じた長男、沢山の共同研究者を代表して名古屋大学准教授のイレ博士の3人を列席させていただいた。

授賞式前の会員や招待者の方々との歓談では、旧知の先生方の多くに久々にお会いし、昔懐かしい話に花が咲いた。両陛下への業績説明では一人3分という制限で緊張したが、オニオム法について“タマネギ”をイメージしましたと申し上げたところ、「タマネギですか」と皇后陛下がお笑いになったので緊張が解けた。授賞式はすべてが大変厳粛で、ご着席の両陛下の前に進み、院長から賞状、目録とメダルを授与さ

れた。

午後には受賞者一同、バスで皇居に向かった。初めて見る皇居は大きなレセプションホール、長い回廊と印象深かった。両陛下、皇太子殿下、秋篠宮殿下と2時間にわたってランチをご一緒させていただいたことは忘れられない思い出である。皇后陛下には「今日はタマネギの勉強をしました」とお声をおかけいただいたし、皇太子殿下、秋篠宮殿下とは、ご研究のこと、イギリスでのことなど話題が広がった。

夜には文部科学大臣主催の祝賀会に夫婦でご招待いただき、楽しい歓談の時を過ごした。恩賜の銀花瓶の風呂敷包みを抱え新幹線に飛び乗り、長い、記念すべき一日を思い出しながら帰路についた。



第5回日本学士院学術奨励賞

平成21年2月12日開催の第1026回総会において、第5回日本学士院学術奨励賞の受賞者6名が決定され、3月9日に授賞式が挙行されました。



「グリア細胞による脳機能の制御」

小泉 修一

山梨大学大学院医学工学総合研究部 教授

脳科学の分野で未解明であったグリア細胞の動的な側面に注目し、神経活動の制御を行っていることを明らかにするほか、脳梗塞の予後との関連性、また、不明であった難治性疼痛である神経因性疼痛の原因を示すなど、先見性と独創性のある優れた研究成果をあげた。



「p進ホッジ理論とその応用」

辻 雄

東京大学大学院数理科学研究科 准教授

数論幾何学において、永らく懸案だった複素数の世界で成り立つホッジ理論が、p進数の世界でも成り立つであろうという予想を完全に解決するという特筆すべき成果をあげた。



「フォトニック結晶中の新奇な物理現象の探索とその応用」

納富 雅也

日本電信電話(株)NTT物性科学基礎研究所 主幹研究員

微細周期ナノ構造(フォトニック結晶)を用いて負の屈折率を発見すると共にそれを生み出す構造を理論的に導出し、従来の光学理論にはないレンズや共振器、結像系を予言し、フォトニック結晶を用いた光による集積情報技術分野を切り開いた。



「国際政治経済学へのゲーム理論的アプローチ」

古澤 泰治

一橋大学大学院経済学研究科 教授

WTOのような多数の国を含む機関は、その交渉のプロセスが複雑化し、二国間交渉のほうが成果を挙げやすいことも認識されているが、ネットワークとしてのWTOの機能をゲーム理論の視点から検討し、理論的な成果をあげた。



受賞者に贈呈される賞状及び賞牌

日本学士院学術奨励賞は、若手研究者を顕彰してその研究意欲を高め、今後の一層の研究を奨励することを目的として実施しています。

本賞の選考は、独立行政法人日本学術振興会の日本学術振興会賞受賞者を対象として行っています。



秋篠宮同妃両殿下と記念写真



肩書きは授賞決定時(平成21年2月12日)

授賞理由等の詳細はホームページをご覧ください。

(<http://www.japan-acad.go.jp/>)



式典全景

「モンゴル時代の文化政策と出版活動」

宮 紀子

京都大学人文科学研究所 助教

『モンゴル時代の出版文化』等の論著において、『孝経直解』、『直説通略』等を例にあげ、豊富な文献資料に基づく分析検討により、北方遊牧民が漢土を支配した大元ウルス時代は、中国文化が破壊された「暗黒時代」ではなかった事実を明らかにした。



賞状及び賞牌を授与される受賞者

「バイオテクノロジーによる新たな動物繁殖技術の開発」

若山 照彦

(独)理化学研究所発生・再生科学総合研究センター チームリーダー

マウスを用いた研究では世界的標準となった核移植技術や凍結乾燥精子を用いる顕微授精法を開発し、その独特な手法によって世界初の体細胞クローンマウスの作出に成功するなど、世界が注視する業績をあげた。



お言葉を述べる秋篠宮殿下

＜学術奨励賞受賞者寄稿＞
モンゴル時代史の鍵を探して

京都大学 宮 紀子

13-14世紀に未曾有の版図を誇ったモンゴル帝国治下、朝廷の庇護・主導によって、人・モノ・情報の交流が大規模に展開された結果、各地の学術・芸術・技術は、古今東西の「英知」を補完・融合し、あるいはその刺激によって画期的な進歩を遂げた。古典や新たな知識の保存・普及を助ける書物の編纂や出版、研究機関・学校の整備が重視され、莫大な公費が投入された。「中国の伝統文化・価値観が破壊された暗黒時代」という通説は成立しない。元曲等の口語文学や挿図本の登場にも現職の官僚が積極的に関わっていたのである。

当時追求された精神のひとつは「分かりやすさ」で、実は日本もその恩恵を受けた。漢文教育に用いられている『十八史略』『古文真宝』、和算発展の契機となった暦や数学書、多分野で盛んに

参照された挿絵入りの百科事典『事林広記』等、皆モンゴル時代に作られ、鎌倉～室町期に留学僧や商人が持ち帰り、公家や五山僧を中心に訓読、研究が進められた。その成果で国語学者が重宝する抄物は、漢籍受容や外交の実態を知るまたとない資料にもなる。日本各地の古刹・神社・旧華族の文庫には、中国では散逸した重要文献が幾つも眠っている筈で、世界各地の所蔵機関と併せて調査を継続し、同時期のペルシア語資料に記される中国方面の情報とともに分析していけば、さらなる展開が期待できそうだ。

これが果たして「中国文学」の研究といえるのか、と疑問を呈されることもあったので、今回の奨励賞は文字どおり今後への奨励としてありがたく受け止めている次第である。



祝賀パーティ会場にて

講演会レポート

平成20年10月以降、4つの講演会、シンポジウム等を開催しました。その様子をレポートします。

1 第49回公開講演会

日時 平成20年10月18日

場所 日本学士院会館

原 寛会員が「異文化の理解－古代インドの場合－」と題して、一つの事柄を表すのに多様な言葉を用いるサンスクリット語を例に異文化を理解することの重要性と難しさを語り、西澤潤一会員は「光」と「電波」をつなぐ「ラマンレーザー」というタイトルで、病気の

検知・ウイルスや菌の分類といったレーザーとテラヘルツ波の応用の大きな可能性を、ユーモアを交えたテンポの良い語り口でわかりやすく解説しました。

聴講者からは「大変面白く興味を持った。」「もう一度聞きたい。」などの声が寄せられるなど好評を博しました。



講演する原会員(10月18日)



講演する西澤会員(10月18日)

2 客員来日記念シンポジウム

「法・暴力・儀礼－歴史をどう読むか？」

日時 平成20年10月29日

場所 日本学士院会館



比較国制史研究会との共催により、カール・クレッシェル客員と石井紫郎東大名誉教授によるシンポジウムを開催しました。

クレッシェル客員が中世ドイツにおける3つの具体的なケースを分析、当時の法と裁判の姿を浮かび上がらせた後、

石井教授がこの講演をどう受けとめ、どのような問題が伏在するかという点について、日本法制史の立場から討論の素材を提供しました。

参加した約70名の研究者は日本語・ドイツ語を交え活発な意見交換を行いました。



クレッシェル客員(中央)と石井名誉教授(右から2番目)(10月29日)

3 仁科記念講演会(客員来日記念講演会)

「Human Society in the Cross Road – A Perspective of a Scientist」

日時 平成20年12月13日

場所 日本学士院会館

仁科記念財団の協力の下、李 遠哲客員による講演会を開催しました。李博士は、基礎化学と原子・分子物理学とが融合する新分野を築かれた科学者で、1986年にノーベル化学賞を受賞されています。

李博士は120名余の聴講者を前に、我々の社会が今日、科学技術の発展

により非常に高度に発展してきた一方、貧困の問題、環境や医療等の面でさまざまな問題を抱えていることについて、今後人類はいかに生きるべきか、どのように限られた地球の資源を利用し他の種と共存すべきか、というテーマを英語で話し、科学者として警鐘を鳴らされました。



講演する李客員(12月13日)



日本学士院特別講演会 学びのススメ ゆめをみつけよう。

日時：平成20年12月16日(火) 14:00～
場所：沼津市立沼津高等学校体育館



講演会場の様子(12月16日)



講演する長倉会員
左は中根会員、李客員

4 日本学士院特別講演会

「学びのススメ～ゆめをみつけよう～」

日時 平成20年12月16日

場所 沼津市立沼津高等学校

学士院初めての試みとして、中高生向け講演会を長倉三郎前院長の出身地である沼津市で、同市教育委員会の協力を得、開催しました。

高い学問的評価を受けている会員が、自己の道程に言及しながら中学生・高校生に平易な言葉で語りかけることを骨子としており、同校及び沼津工業高校の生徒、近隣中・高校の教員など約900人が聴講しました。

長倉前院長は、ねばり強く納得いくま

で考え抜くことの重要性に触れ、将来に夢を持ち強い意欲と意志を持って欲しいと語りかけました。続いて中根千枝会員が、好きなことへの関心を持ち続けなければいずれ道は開けると激励。最後に李遠哲客員が、生い立ちをたどりながら高校時代に病を経て生きる意味を考えたことを紹介しました。

予定された時間を大幅に超えましたが、最後まで熱気にあふれた講演会でした。



講演会終了後、生徒 達から届いた感想文

勉強の大切さ、楽しさ、そして一つの問題に真剣に最後まで取り組むことの大事さを教えてくれました。中途半端でなく最後までやり遂げることを大事にしていきたい。

(中1 野田敦史くん)

夢は親や友達から言われ決めるのではなく、いつかきっと「これだ!!」というものが出てくる。それまでゆっくり考え、焦らずに自分のペースで行こう、夢をかなえるために高い意志や志を持つようにしたい。

(中3 中野愛望さん)

研究者に限らず、人は好奇心を持って生きているべきであると感じました。一つのことを極める。これは現代人に欠けた心かもしれません。私たちはそのすばらしさを体感し、次世代へ伝えていかなければならないと思います。

(高3 高島麻倭子さん)

好きなことへの関心を忘れなければ道は開けることを信じて、多くのことに挑戦していきたい。日常の中で生まれた関心事の中で、一番長く深く興味を持ち続けているものが、自然と今につながっているのだと感じました。

(高3 石渡香織さん)



講演会の前に栗原裕康沼津市長(中央)と懇談する李客員夫妻(左)、長倉会員(右奥)、中根会員(右手前)



所蔵資料の紹介

川本幸民(文化7年(1810)ー明治4年(1871))は、三田藩侍医の川本周安の息子として、現在の兵庫県三田市に生まれました。幼い頃より天分に優れ成績も抜群であったとのこと。幸民の秀才を認めた当時の三田藩主九鬼隆国に命ぜられ文政12年(1829)江戸に留学し、足立長雋、坪井信道らに蘭学を学び、物理・化学の道に精通しました。

《所蔵資料》

一川本幸民関係資料一 186点
(昭和18年、川本家より寄贈)

このコーナーでは、本院が所蔵する貴重図書・資料についてシリーズで紹介いたします。

第3回は「日本化学の始祖」と呼ばれる川本幸民の関係資料です。



川本幸民肖像画



『化学新書』(稿本)

川本幸民訳

(文久元年(1861))

蘭訳“De Scheikunde van het onbewerkte en bewerkte gemaal”
J.W.Gunning訳(1855)を訳したもの。

原著は“Die Schule der Chemie”
Julius Adolf Stokhardt著(1846)。

内容は、初等化学の全域にわたる。本書で初めて「化学」という語が書名に使われた。

[原文]

細磨セル麦芽一銖ニ、冷水三銖ト沸湯四銖ヲ和スル者ヲ注キ、一二時温處ニ置キ、摂氏六十五度ヨリ七十度ノ温ヲ得セシムレハ、其液甘味ヲ生シ、埤屈私多里捏(デキシタリネ)ト糖ヲ含ミ、且又麦芽ヨリ分カレタル植膠分、コトニ溶解ス。此液ヲ(モスト)ト名ツク。布片ヲ以テコレヲ濾シ、二時コレヲ煮テ、清澄透明ナルニ至リ、放冷シテ三十度トナルニ至リ、酷(ギスト)一茶匙ヲ加フレハ、速ニ泡醸シ、一二日後、復清澄ス。此清澄ナル泡醸液ハ、即麦酒ナリ。(中略)○此液煮ユル際ニ、忽布(中略)少許ヲ加フレハ、香竄苦味分律彪里涅(リュビュリネ)溶解シ、麦酒ノ氣ヲ烈クシ、味ヲ美ニスルノミナラス、久キヲ経テ、損敗スル無カラシム。

『化学新書』に記されたビール醸造法

(訳文は17ページ)



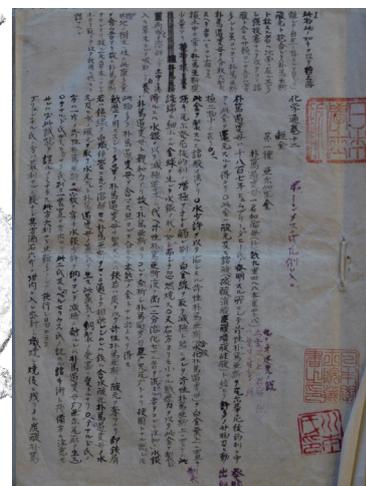
『化学通』巻12

川本幸民訳編

(明治3年(1870)～9年(1876))

川本幸民がかつて訳した、GunningやBoom Meschの著書の内容をまとめたものを、次男川本清一が明治3年閏10月に官許を得て出版した。1～7巻には、総論、非金属元素がまとめられている。

本院には軽金について書かれた巻12の原稿が残っているため、全体の構成は金属元素を含むものであったと推測される。「酸素」、「水素」はそれぞれ、「酸元」、「水元」と表記されている。



『気海観瀾広義』

川本幸民訳述

(嘉永4年(1851)～安政5年(1858))

幸民の義父青地林宗は、文政8年(1825)に西洋の自然科学の教科書として『気海観瀾』を編訳した。それを補うため、幸民は二、三の蘭書を参考にし『気海観瀾広義』を著した。物理学を中心に化学、医学にも言及されている。明治の初めまで印刷され、物理学の入門書として広く読まれた。



幸民は『気海観瀾広義』で銀板写真に言及しており、実際に嘉永四年(1851)に銀板写真の撮影に挑戦して成功している。

その10年後、咸臨丸の使節団が持ち帰った写真を湿板写真であると見抜き、手作りの材料で複製に成功した。

上は妻秀子の湿板写真



川本幸民の出身地である三田市の市制40周年を記念して作成された川本幸民肖像画を印刷した缶ビール。肖像の後ろに、本院所蔵の『化学新書』が印刷されている。

本院では、これまでに紹介した「和算図書」、「伊能忠敬関係資料」をはじめ、今回の「川本幸民関係資料」のほか、オランダ商館日誌の謄写本、緒方洪庵書簡などの貴重図書・資料を所蔵しています。

学術研究を目的とする研究者であればどなたでも閲覧することが可能です。詳しくは図書担当までご連絡ください。

新会員選定

平成20年12月12日開催の第1024回総会において、日本学士院法第3条に基づき、次の6名を新たに日本学士院会員として選定しました。

第1部第2分科



竹下守夫

駿河台大学総長、一橋大学名誉教授

専門分野: 民事訴訟法学

民事訴訟法、特に不動産執行の分野で高い業績を残した。この分野は、担保権などの処理に絡む複雑な問題が多く、学問的に不毛な状態が続いたが、諸外国の法制度と比較する手法を駆使し、精緻な解釈・立法論を確立して研究水準を高めた。

第1部第2分科



龍田 節

同志社大学特別客員教授、京都大学名誉教授

専門分野: 商法

株主総会で特別な利害関係者の議決権濫用を排除する「議決権排除」の理論などを構築し、昭和56年の商法改正に大きな影響を与えた。また、現在の金融商品取引法を、投資者保護の法に発展させるための基礎理論を確立するなどの業績を残した。

第1部第2分科



菅野和夫

明治大学法科大学院教授、中央労働委員会会長、東京大学名誉教授

専門分野: 労働法

戦後本格的に研究が開始された労働法学を法律学として確立させた。民事法学などの理論との整合性を考慮した解釈論の体系化は、画期的な業績の一つである。また、個別労働紛争の増加に対応するため「労働審判制度」(2004年)の構築にも大きく寄与した。

第1部第3分科



新開陽一

大阪大学名誉教授

専門分野: 経済学

経済学成長理論では、1財を前提とするハロッド・ドーマーのモデルを2財モデルに拡張し、失業率が発生しない均整成長率の存在条件を分析した。また、日本経済のマクロ計量モデルの構築や金融・財政政策の「割当問題」の分析でも高く評価されている。



シンボルマークの由来

「古事記」にも記されている「長鳴鳥(ながなきどり)」は、日本の黎明を告げる鳥という由来があります。鳥は花や草木と一對で描くと、平和で豊かな世界を願う心が映し出されるということで、桜花と対にし、本院のシンボルマークとしました。





第2部第4分科



西田 篤弘

宇宙科学研究所名誉教授

専門分野: 宇宙空間物理学

プラズマポーズや磁気圏尾部などの地球周辺空間構造の解明に大きく貢献した。また、磁気圏尾部観測衛星「ジオテイル」のプロジェクトリーダーを務め、衛星の観測結果に基づき、磁気圏プラズマの加速メカニズムも明らかにした。

第2部第7分科



鈴木 邦彦

米国ノースカロライナ大学医学部名誉教授、同大学神経科学センター名誉センター長

専門分野: 神経化学、神経内科、遺伝性神経疾患

難病ライソゾーム病及び関連遺伝性小児神経疾患の病理メカニズムを生化学の面から追求した。特にライソゾーム病の一種、クラベ病の原因となる欠損酵素の同定や、同病の臨床・病理・生化学の所見を説明可能にした「サイコシン仮説」の提唱は特筆すべき点である。

<会員はこうして選ばれます>

- 1月 官報公示
学術機関、学会等からの会員推薦受付開始
- 3月 会員選考開始



約8ヵ月にわたり厳正な審査が行われます

- 12月 部会投票、総会承認を経て新会員選定



久保院長から会員選定状を授与される新会員

会員選定状授与式の様子
(平成20年12月19日)



役員との懇談

総会における論文報告・談話

総会では、第1部(人文科学部門)は会員が論文を提出、第2部(自然科学部門)では会員の談話とともに学術上優れた外部研究者の論文が紹介されます。以下は、最近提出された会員の論文・談話です。

総会	部	題 目	提出(担当)者
1022回		工学における教養教育について(合同談話会)	岩 崎 俊 一
	第1部	柴田敬博士と新経済論理	根 岸 隆
1023回	第1部	マイスター・エックハルトーそのドイツ語説教とは何であるか。	上 田 閑 照
		犯罪被害者と法	松 尾 浩 也
	第2部	インフルエンザウイルスの生態－新型コロナウイルスの出現に備えて－(談話)	喜 田 宏
1024回		チベット牧象図	御 牧 克 己
	第1部	憲法を「変える」行為の法的性質をめぐる議論について	樋 口 陽 一
	第2部	科学研究における複眼的視点の重要性(談話)	長 倉 三 郎
1025回		法令による義務づけの緩和について	西 尾 勝
	第1部	アダム・スミス翻訳の歴史－婦人束髪会、明治女学校、吟醸酒『富国論』	水 田 洋
	第2部	異分野融合が行える環境は？－質量分析開発を一例として－(談話)	田 中 耕 一
1026回	第1部	慈円の和歌と神祇信仰	久保田 淳
		公益と行政法	塩 野 宏
1027回	第1部	史料研究と学説史－古代経済史の場合－	伊 藤 貞 夫
		日本民法典改正の課題と方向	奥 田 昌 道
	第2部	森林減少による荒廃地の拡大と生物を用いた修復(談話)	佐々木 恵彦



合同談話会



第2部における論文報告

喜田 宏 会員談話

「インフルエンザウイルスの生態－新型コロナウイルスの出現に備えて－」抄録

鳥インフルエンザ対策の基本は、感染家禽を早期に摘発、淘汰し、被害を最小限に食い止めるとともに、ヒトの健康と食の安全を守ることである。ヒトの新型インフルエンザウイルス対策も、ウイルスの自然宿主である野生水禽と、家禽、家畜およびヒトの「グローバルサーベイランス」を不断に推進し、予測と予防を図ることによって執られる。ただし、毎年冬季に流行する、シーズナルインフルエンザ対策を確立することが前提である。



第50回公開講演会のお知らせ

平成21年5月23日(土)、第50回公開講演会をくまもと県民交流館パレア(熊本市手取本町)において開催します。



演題 「熊本と刑法」

講師 松尾浩也会員

東京大学名誉教授
中国吉林大学客座教授
法務省特別顧問

概要 我が国の刑法の発展に貢献した熊本県人の業績を視野に入れ、日本における刑法の発展を語る。また、裁判員制度についても触れる。



演題 「クローン動物生産技術の有効利用」

講師 入谷 明会員

京都大学名誉教授
近畿大学理事、同大学先端技術総合研究所長

概要 クローン食品の安全性、クローン技術を使った野生動物、絶滅動物の保護・復活など関心の高いトピックに触れる。

<共催> 高等教育コンソーシアム熊本

<後援> 熊本県・熊本県教育委員会

入場無料

必要事項を記入の上、下記まで事前にお申し込みください。

<申込方法> 日本学士院ホームページから、または、FAX、往復ハガキ、E-mail

<必要事項> 氏名(フリガナ)、住所、電話番号等連絡先

日本学士院公開講演会係 (〒110-0007 東京都台東区上野公園7-32)

TEL: 03-3822-2101 FAX: 03-3822-2105

E-mail: kouenkai@japan-acad.go.jp

http://www.japan-acad.go.jp/

※ 高等教育コンソーシアム熊本、熊本県でも申し込みを受け付けています。詳細は本院ホームページにて



くまもと県民交流館パレア

<http://www.parea.pref.kumamoto.jp/>

12ページ[化学新書訳文]

粉碎した麦芽1に対して、冷水3と沸騰水4をまぜたものを加えて、1～2時間温かい所に置き、摂氏65～70度の温度に保つと、その液体が甘味を帯び、デキストリン(※)と糖を含むようになり、また、麦芽から出たたんぱく質が溶け出した液体になる。この液体をマッシュと呼ぶ。布でマッシュをろ過し、1～2時間煮て、清澄になった後、摂氏30度まで冷ましてから、酵母を茶さじ1杯加えると、速やかに発酵し、1～2日後にはまた清澄になる。この清澄な液体がビールである。(中略)この液体を煮る際に、ホップ(中略)を少々加えれば、苦味成分のルプリンが溶け出し、ビールの気はげしくなり、美味になるだけでなく、腐敗せずに長持ちする。

※デキストリン: デンプンの一種を分解して得られる中間生成物の総称

外国アカデミー等との交流

ロンドン王立協会を始め、9カ国10機関と交流協定を結び相互訪問等を実施するほか、海外の学術団体等との学術交流を促進しています。

区分・相手先		会員等氏名	期間
受入	客員招へい	カール・クレツェル 客員	20.10.26～11.2
		金 泰吉 客員	20.11.17～11.23
		李 遠哲 客員	20.12.11～12.21
	表敬訪問	イアン・ヒル・ニッシュ 客員	20.12.4
派遣	台湾中央研究院80周年記念 Academy Presidents' Forum	久保 正彰 会員	20.12.5～12.9
	フランス科学アカデミー	古在 由秀 会員	21.1.14～1.18
	ドイツ自然科学・人文科学アカ デミー連合	大村 智 会員	21.2.16～2.22
	国際学士院連合関係事業	松井 洋子 東京大学史料編纂所教授	21.2.8～2.15
		小野 将 東京大学史料編纂所助教	21.3.6～3.14



会員と懇談するクレツェル 客員



金 客員にメダルを授与する久保院長

EMSEV-DEMETER2008

会員 上田 誠也

国際測地学・地球物理学連合(IUGG)傘下の「地震・火山に関する電磁気学研究ワーキンググループ(Working Group on Electro-Magnetic Study of Earthquakes and Volcanoes 略称EMSEV WG)」の研究集会が9月7日から12日までの間、ルーマニアで開催された。(中略)

研究集会には以下の6セッションが設定されていた。

- 1 Vrancea地帯、その他の諸地域の地震活動
- 2 地震、津波、火山、地滑り、地熱活動に関わる電磁気研究
- 3 多種目モニタリングの統合・地上観測と衛星観測の相関
- 4 電磁シグナルの発生・伝搬機構の理論、室内実験
- 5 地震・火山にともなう電離層擾乱・GPSによる観測結果
- 6 活断層、火山、地滑り、地熱地帯などの電磁氣的イメージング

この会の特徴について多少の解説を試みると、セッション1のVrancea地帯というのはルーマニアにおける地震頻発地帯である。ここではマグニチュード7クラスの地震が起き、1977年の地震は首都ブカレストにも大被害をもたらし、死者は1000人を超えた。日本列島のように海洋プレートが沈み込んでいるいわゆる沈み込み帯以外では、地震の震源の深さはほぼ30～40km以浅であるのに、この地震の震源の深さは150kmもあり、そのメカニズムは未だに論議を集めている。セッション3での衛星観測というのは、フランスが2004年に打ち上げた地震電磁放射検知衛星(Detection of Electro Magnetic Emissions Transmitted from Earthquake Regions: DEMETER)の観測のことである。セッション5で採りあげられたように、地震にともなって大気上層、高度100km以上の電離層に異常変動(電子密度の変動)が発生するということが最近大きな話題になっているので、それを直接検知しようというのである。自国にはほとんど地震などないのに、衛星を打ち上げたフランスの科学研究意欲は見上げたものといえよう。

(「日本学士院紀要」第63巻3号より抜粋、一部編集を加えています)



EMSEV-DEMETER2008出席者
ドラキュラのBran城にて
最前列一番左が上田会員



会館施設の利用案内

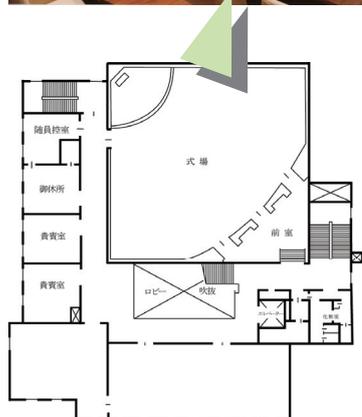


建築家谷口吉郎氏の設計による現在の日本学士院会館は、日本を代表する碩学の府にふさわしい荘厳かつ気品と機能性を備えた建物となっています。館内には、議場のほか大小六つの会議室等があります。

本施設をご利用になりたい方は、庶務係までお問い合わせください。

(平成20年10月以降の会館利用状況)

利用年月日	利用目的・内容
平成20年10月25日	文献学研究会第7回研究集会
平成20年11月14日	第8回山崎貞一賞贈呈式
平成20年11月28日	「新規発がん要因の検索とヒト発がんへの関与に関する研究」 班会議
平成20年12月 8日	国際生物学賞授賞式
平成20年12月26日	「科学的体験学習プログラムの体系的開発に関する調査研究」 中間報告会
平成21年 3月 9日	日本学術振興会賞・日本学士院学術奨励賞授賞式



(2階平面図)

寄附のご案内

民間企業、団体、個人等から広く寄附金を受け入れ、学術の振興に資する事業を実施しています。金額の多少にかかわらず趣旨に賛同される方々からのお申し出を期待しています。

なお、本院への寄附金は国に対する寄附金として、寄附者が個人の場合

は、所得より「寄附金控除」の適用を受け、法人の場合は、「寄附金損金算入」の特例が適用されます(関係法令: 所得税法第37条第3項第1号)。

詳細については、会計係までお問い合わせください。

<平成20年度下半期受入実績>

受入年月	個人・団体名	金額
平成20年10月	村上三恵子氏	10,000円
平成21年 1月	財団法人原田積善会	300,000円
平成21年 3月	山崎舜平氏	10,000,000円
平成21年 3月	丸善株式会社	100,000円



会員・客員の逝去

平成20年10月以降、以下の方々が逝去されました。

<会 員>

荒 松雄 会員	(第1分科)	平成20年11月 8日	享年87歳
伊藤 清 会員	(第4分科)	平成20年11月10日	享年93歳
加藤一郎 会員	(第2分科)	平成20年11月11日	享年86歳
藤田廣志 会員	(第5分科)	平成20年11月17日	享年82歳
松本達郎 会員	(第4分科)	平成21年 2月 7日	享年95歳
西島和彦 会員	(第4分科)	平成21年 2月15日	享年82歳
樋渡宏一 会員	(第4分科)	平成21年 3月 7日	享年88歳
花房秀三郎 会員	(第4分科)	平成21年 3月15日	享年79歳

<客 員>

Derek Brewer客員(イギリス)		平成20年10月23日	享年85歳
----------------------	--	-------------	-------



編集後記

昨年4月に第1号を発行して早いもので1年が過ぎた。ここに昨年10月からの本院の活動を紹介する第3号をお届けする。本年1月に迎えた創立130周年、客員のノーベル賞受賞や会員・客員の文化勲章受章のほか、第99回日本学士院賞や各種講演会の報告などご覧いただきたい。

さて、第2号をお届けしてからこの半年で世界は未曾有の金融危機に陥った。昨年9月15日にアメリカの名門証券会社で投資銀行でもあるリーマン・ブラザーズが連邦倒産法第11章の適用を連邦裁判所に申請すると発表して事実上破綻したいわゆるリーマン・ショックを引き金に。そのような大不況の中、今年の1月20日バラク・オバマが第44代アメリカ大統領に就いた。オバマ大統領の演説は、非常に明快で聴衆を惹きつける。「今回の金融危機から得た

ほかでもない教訓というのは、メイン・ストリート(普通の町の中央通り)が苦しんでいるのにウォール・ストリートだけ栄えるなど、そんなことがあってはならないということ。それを忘れずにいましょう。」

言葉のわかりやすさとともに、選挙戦でライバルだった候補を称え、要職に就けるという斬新な手法も目を引く。歴史的な大不況の苦しいときだからこそ、人種や出身、政党などを越えた協力関係を築き、“Change”、“Yes, we can”というキャッチフレーズのもと、平和で豊かな世界へと変革を進めるようお願いしたい。

最後に、ご多忙にもかかわらず本誌にご寄稿いただいた方々に感謝を申し上げる次第である。今後のニュースレターへのご要望などあれば事務までお寄せいただきたい。

◎お問い合わせ先

日本学士院

〒110-0007
東京都台東区上野公園7-32
電話: (03)3822-2101
FAX: (03)3822-2105
E-mail: shomu@japan-acad.go.jp

ホームページもご覧ください。
<http://www.japan-acad.go.jp/>